

札幌で最初の和人の定住者

## 吉田茂八

札幌がまだ原野だった江戸末期、豊平川の渡守として、志村鉄一らとともに最初に住み着いた和  
人、札幌開祖「吉田茂八」について紹介します。

吉田茂八は南部（現在の東北地方）の出身で、安政二年（一八五五年）、幕府の石狩役所が設置された際に主人の足軽亀谷丑太郎とともに石狩に移住した農夫で、狩猟を得意としていました。

そして四年（一八五七年）、銭函から札幌を通り千歳を経て勇払に通じる「札幌越新道」の開通に伴い豊平川に渡船場ができた際、石狩役所調役荒井金助に豊平川の左岸の渡守として住むよう命ぜられました。彼は、現在の南四条東四丁目の辺りに定住したことから、札幌に定住した最初の和人として言い伝えられています。

開拓使の時代になり、明治二年（一八六九年）、島判官に雇用され地勢調査の道案内をしたり、翌三年（一八七〇年）には土木工事を請け負ったり、現在の

創成川の南三条から南六条の間の「吉田堀」の開削に従事するなど、請負業者として成功しましたが、その後の様子はよく分かっていません。

現在、この茂八の功績をたたえる「札幌開祖吉田茂八碑」が豊平橋のたもとの小さな公園（南五東四）の中に建っています。

これは、地元の東地区連合町内会などが主体となつて結成した「吉田茂八碑顕彰保存会」が中心になつて昭和五十六年七月に建てたもので、毎年八月に慰霊祭を行い、先住者の苦勞をしのんでいます。

（平成五年十一月号・第五回）



札幌開祖吉田茂八碑（南5東4）